

平成 26 年度仙台市図書館事業報告書

(仙台市図書館振興計画に基づく事業の実施状況)

平成 27 年 9 月

教育局市民図書館

目 次

○平成 26 年度仙台市図書館運営方針	1
○平成 26 年度仙台市図書館事業報告	
方向性1 地域や市民に役立つ図書館	
(1)課題解決に取り組む市民を応援します	2
【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】	
【レファレンス機能の充実】	
【課題解決型情報支援サービスの充実】	
【地域の専門機関との連携】	
(2)情報化社会の進展に合った情報提供の充実を進めます	4
【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】	
【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】	
【様々なネットワークへの参加・連携】	
(3)地域の創造性の継承・発展に取り組みます	5
【地域情報の蓄積・継承・発信】	
【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】	
(4)「学都仙台」を活かして大学図書館等との地域連携を進めます	6
【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】	
方向性1 仙台市図書館協議会の意見	6
方向性2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館	
(1)誰もが使いやすい図書館サービスをめざします	7
【高齢者サービスの充実】	
【障害のある人へのサービスの充実】	
【外国人が使いやすいサービスの充実】	
(2)どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします	9
【市民センターでの図書サービスの拡充】	
【移動図書館サービスの再編・整理】	
方向性2 仙台市図書館協議会の意見	9

方向性3 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館	
(1) 子どもの年齢に応じた図書サービスを提供します	10
【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】	
【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】	
(2) 障害のある子どもの状況に合った図書サービスを提供します	12
【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】	
【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】	
(3) 子どもの創造性を育む読書環境を支える輪を広げます	13
【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】	
【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】	
(4) 子ども読書を進めるために家庭、地域、学校などとの連携を深めます	14
【学校との連携の強化、協働による事業の充実】	
【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】	
【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】	
方向性3 仙台市図書館協議会の意見	14
方向性4 自らの変革を進める図書館	
(1) 仙台市民の財産として資料の収集・保存を計画的に行います	17
【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】	
(2) 図書館像を共有して市民と共に図書館づくりを進めます	18
【図書館サービスの広報、図書館像の共有】	
【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】	
(3) 図書館資源を適正に配分し有効に活用します	20
【システムやサービスのあり方の見直し】	
【ICタグの計画的な導入】	
(4) 図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行います	21
【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】	
(5) 図書館職員の資質の向上に努めます	22
【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】	
【専門性と経営能力を備えた職員の養成】	
方向性4 仙台市図書館協議会の意見	22
用語解説	23

平成26年度仙台市図書館運営方針

図書館は、資料の収集・保存・提供を通して、市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設であり、「知る権利」や「学ぶ権利」を保障し、生涯学習の機会を提供する施設として重要な役割を果たしている。

近年、少子高齢化、国際化、情報化の急激な進展に伴い、図書館を取り巻く環境は大きく変化し、図書館に対する市民のニーズも多様化してきている。

こうした状況のもと、平成24年3月にこれからの本市図書館に求められる図書館像、振興方策を盛り込んだ「仙台市図書館振興計画」を策定した。本計画は、平成24年度から28年度までの5年間を計画期間としている。

平成26年度は、「仙台市図書館振興計画」の3年目の年であり、これまでの事業実施に対する評価を踏まえ、さらなる取り組みを進めていく年度となる。本計画の具体的な事業計画となる「平成26年度仙台市図書館事業計画」に基づく施策を確実に実施していく。

仙台市図書館は、目指す図書館像「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を図るため、仙台市図書館振興計画における次の4つの方向性に基づいた図書館サービスを提供していく。

- 1 地域や市民に役立つ図書館
- 2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館
- 3 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館
- 4 自らの変革を進める図書館

施策 (1)課題解決に取り組む市民を応援します
平成26年度事業概要
【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・選定会議・調整会議の開催により、様々な課題解決に役立つ資料の充実を図る。
- ・図書館資料(一般書、児童書、AV資料)を紹介する刊行物を継続して発行する。
- ・本のテーマ別展示を継続して行う。
- ・庁内外関係機関等を通じた東日本大震災関連資料や情報の収集と閲覧・貸出を継続して行う。
- ・3.11震災文庫※及び各館震災コーナーを継続して設置する。
- ・「とよかん・メディアテークフェスティバル」で東日本大震災関連資料の展示・広報を行う。
- ・国連防災世界会議※の開催に合わせて、東日本大震災関連資料や情報を積極的に発信する。

【レファレンス※機能の充実】

- ・レファレンスサービスの利用促進に向けレファレンス利用ガイドを作成・配布する。
- ・庁内外関係機関を通して専門分野に関する資料や情報を収集しレファレンスサービスに役立てる。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステム※への参加を継続する。
- ・3.11震災文庫資料情報に係るホームページ掲載内容を充実する。
- ・収集・保存した震災関連資料の整理を進め、被災者等が必要とする情報に関するレファレンスサービスを実施する。
- ・レファレンス事例集を継続して作成・配布する。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- ・図書館ホームページのコンテンツ等の追加、見直しを行い、内容の充実を図る。

【地域の専門機関との連携】

- ・専門機関等と連携した情報展示コーナーを設置する。
- ・地域の専門機関と連携した市民向け講座・講演会、相談会を実施する。
- ・在仙の学術機関、民間企業、行政機関等に係る情報提供や相談窓口の紹介を行う。

平成26年度実施状況
【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・集中選書会議等により調整を行い、様々な課題解決に役立つ資料を幅広く収集した。

	平成25年度	平成26年度	備考
資料受入数(冊・点)	75,239	78,967	一般書・児童書・視聴覚資料・雑誌・新聞
蔵書数(冊・点)	1,941,966	1,983,683	一般書・児童書・視聴覚資料
利用者数(人)	1,310,211	1,318,050	団体・文庫を除く
貸出数(冊・点)	4,109,186	4,132,974	団体・文庫を除く

- ・図書案内等の刊行物を定期的に発行した。ジャンル別新着資料案内等を工夫して利用者への情報提供の充実を図った。

- 子ども向け図書案内 14種類、一般向け図書案内 7種類、AV資料案内 5種類、図書館利用案内等
- ・図書館全館で、本のテーマ別展示を毎月実施した。また、課題解決や暮らしに役立つ本のコーナーを設置し関連資料の充実を図るとともに、その時期に関心を持つ人が多い旬の本や話題の本のコーナー展示も行った。
- ・課題解決や暮らしに役立つ本のコーナーで、関連する市事業や講座等の広報を行った。(太白図書館)
- ・3.11震災文庫及び各館震災コーナーを継続的に設置するとともに資料の充実を図った。
- 平成26年度末現在3.11震災文庫資料収集数 6,243点(平成25年度末 4,309点)
- ・震災コーナーの展示スペースを拡張した。(泉図書館)
- ・「国連防災世界会議」の開催に合わせた特別展示等を行った。
- 開館時間の延長等を行い、3.11震災文庫資料の特別展示を行った(平成27年3月14日～18日)。(市民図書館)
- 「世界へ語り継ぐ記憶～あの日を忘れない～」と題して東日本大震災関連資料の特別展示を行った(平成27年3月1日～25日)。(宮城野図書館)
- 「じしんとぼうさい」と題して東日本大震災及び防災関連資料の特別展示を行った。(平成27年2月27日～3月25日)。(太白図書館)
- 防災おはなし会を実施した。(泉図書館、太白図書館、榴岡図書館)

平成26年度実施状況(続き)

【レファレンス機能の充実】

- ・平成26年度レファレンス件数 68,127件(平成25年度 73,277件)
- ・レファレンスサービスの利用案内ガイドを作成し各館に配置するとともに、図書館ホームページにも掲載した。
- ・相談の多い事例について、パスファインダーを作成・配布し、テーマに応じた調べ方や関連する図書館資料を案内した。
平成26年度末現在パスファインダー数 11件
- ・博物館等の社会教育施設や仙台商工会議所等の機関を通して、専門分野に関するレファレンスのための資料や情報の収集を行った。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称ひなぎく)でも検索可能な3.11震災文庫の図書等の書誌情報を追加更新した。
- ・震災関連資料の所蔵案内や震災関連レファレンスサービスを継続して実施した。
- ・司書資格等、一定の条件を満たした職員が腕章をつけて業務を行った。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- ・図書館ホームページに掲載している行事、新着資料、貸出ランキング等、図書館関連情報の随時更新を行った。
- ・図書館ホームページに関連情報へのリンク先を追加した。

【地域の専門機関との連携】

- ・日本政策金融公庫との共催で創業支援セミナーを行い、関連するパネルや図書資料を展示した。(泉図書館)
- ・皆既月食に合わせ、元天文台職員を講師に、月食のしくみから宇宙の成り立ちについての講演を実施した。(宮城野図書館)
- ・仙台市博物館と連携して歴史講座「道の歴史ー太白区内の街道」を実施した。(太白図書館)
- ・仙台市博物館と連携して歴史講座「イグネのある村へー六郷・七郷地域の中近世史」を実施した。(若林図書館)
- ・仙台市天文台と連携して「子ども天文教室」を実施した。(広瀬図書館)
- ・国立仙台高等専門学校広瀬キャンパスと連携して児童向け科学工作会を実施した。(広瀬図書館)
- ・作並温泉旅館組合と連携して講演会を実施した。(広瀬図書館)
- ・仙台市歴史民俗資料館と連携してハレの日の食を紹介する事業を実施した。(榴岡図書館)
- ・地底の森ミュージアムと連携して、同施設で関連資料を展示した。(太白図書館)

課題・改善策等

【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・震災に関する資料の整理を継続して進め、集積された情報の効果的な活用に努める。
- ・震災に関する資料の収集においては、資料の散逸も懸念されることから、情報収集や作成者に送付を依頼するなど引き続き積極的な収集に努めるとともに、劣化した資料の買い換えにも努める。

【レファレンス機能の充実】

- ・レファレンス利用ガイド等を活用してレファレンスサービスの利用促進に努めるとともに、利用者向けデータベースの充実等、レファレンスサービスの一層の充実を図る
- ・レファレンスサービスに活用できるよう多様な資料の収集を継続して行う。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- ・ホームページの関連リンクの拡大など、掲載情報を更に充実していく。

【地域の専門機関との連携】

- ・地域の専門機関に関する活動内容の情報収集や紹介などに加えて、相互に顔の見える関係を築くなど、積極的な情報交換のための取り組みを行っていく。
- ・継続した取り組みにより、地域情報の発信力強化、所蔵する関連資料の利用の拡大につなげていく。
- ・地域の魅力をより深く掘り下げて提供するため、特色・魅力のある企業や団体との連携による講演会等も企画する。
- ・連携による事業を通じて、図書館と連携先双方の認知度を高めたり利用の増加などの相乗効果が図られるよう、より良い広報のあり方について検討していく。

施策

(2) 情報化社会の進展に合った情報提供の充実を進めます

平成26年度事業概要

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

- ・商用データベース※の利用促進を図るとともに計画的拡充を行う。
- ・図書館内のインターネット環境の整備に向けた調査・検討を行う。
- ・電子資料閲覧用機器を設置する。
- ・電子書籍閲覧・貸出を実施している他都市調査・検討を行う。

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービス※の提供】

- ・ホームページにレファレンス事例集を掲載する。
- ・国立国会図書館レファレンス協同データベース※へ事例の登録を行う。
- ・市民のためのデータベース等情報検索・活用講座を開催し普及を図る。

【様々なネットワークへの参加・連携】

- ・国立国会図書館総合目録ネットワーク※事業フォーラム、研修会等へ参加する。
- ・国立情報学研究所目録所在情報サービス※への参加について検討する。

平成26年度実施状況

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

- ・商用データベースサービスを継続し、利用者に最新の情報を提供している。
平成26年度利用者向け商用データベース 6種類(平成25年度 6種類)
利用件数 757件(平成25年度 683件)
- ・図書館内のインターネット環境の整備に向け、検討中である。
- ・電子資料閲覧用機器を設置し、デジタル化した和書・漢籍・古地図の閲覧サービスを提供した。(市民図書館)
利用件数 38件

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】

- ・ホームページにレファレンス事例集を掲載し、図書館の活用方法の周知に努めた。
- ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへの事例登録を継続して行った。
平成26年度末事例登録件数 111件(平成25年度末 46件)
- ・市民のためのデータベース活用講座(日経テレコン21)を開催した。(市民図書館)

【様々なネットワークへの参加・連携】

- ・国立国会図書館総合目録ネットワーク研修会、資料デジタル化研修、デジタル化資料活用セミナーへの参加により、公共図書館での書誌情報交換の活性化へ向けた今後の取り組みについて理解を深めた。
- ・国立情報学研究所による目録所在情報サービスへの参加について、得られる効果と発生する費用負担について引き続き検討を行った。

課題・改善策等

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

- ・商用データベースの利用促進を図るため、市民向け講座等を引き続き開催する。

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】

- ・レファレンスサービスについて、レファレンス事例集をホームページに掲載するなど、市民に継続して周知し、利用促進に努める。

【様々なネットワークへの参加・連携】

- ・国立国会図書館研修会等へ引き続き参加して、取り組みへの理解を深め、新システムでの対応が必要な事項を整理する。

施策	(3)地域の創造性の継承・発展に取り組みます
-----------	-------------------------------

平成26年度事業概要**【地域情報の蓄積・継承・発信】**

- ・多様な地域資料(DVD等も含む)を収集する。
- ・デジタル化した和漢書のホームページでの公開について検討を行う。

【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

- ・仙台に関する情報の収集・集積、展示、ホームページによる発信を行う。
- ・仙台に関する資料や情報のリスト、パスファインダー※を作成する。
- ・仙台に本拠地を持つプロスポーツチームに関する情報の収集と展示コーナーの開設を継続して行う。

平成26年度実施状況**【地域情報の蓄積・継承・発信】**

- ・多様な地域資料(DVD等も含む)の収集に努めた。
平成26年度郷土資料受入数 2,928冊(平成25年度 2,791冊)
- ・デジタル化した和書・漢籍・古地図について、館内での閲覧を開始した。(市民図書館)
- ・長町タウン情報誌「NEXT」の展示・配布コーナーを館内に設置した。(太白図書館)
- ・地域住民の記憶を、詩やエッセイとして収集し電子データとして保存・共有する地域文集事業「思い出アーカイブ」を開始した。(広瀬図書館)

【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

- ・市民の協力を得て仙台に関する情報の収集と資料の提供に継続して努めた。
平成26年度寄贈による郷土資料受入数 1,889冊(平成25年度 1,686冊)
- ・地域情報のパスファインダーを作成し、郷土に関する情報として提供した。
- ・若林区に関するパスファインダー「もっと知りたい若林区」の改訂を行い館内に設置するとともに、平成25年度利用者懇談会での学校からの要望を受けて、区内小中学校にも配布した。(若林図書館)
- ・泉図書館の「ベガルタ仙台展示コーナー」にサッカー関連資料や試合結果を継続して展示した。(泉図書館)
- ・宮城野図書館に「東北楽天ゴールデンイーグルス展示コーナー」を引き続き開設し、関連資料の収集・展示を行った。(宮城野図書館)
- ・太白図書館の「仙台89ERS展示コーナー」を拡充し、選手紹介パネルなども常設展示した。(太白図書館)
- ・太白図書館に「秋保情報展示コーナー」を開設し、秋保地区各施設のパンフレットや郷土資料等を置き情報提供を行った。(太白図書館)

課題・改善策等**【地域情報の蓄積・継承・発信】**

- ・デジタル化した和書・漢籍・古地図のホームページでの公開について、新システムでの対応に向けて準備を進める。
- ・「思い出アーカイブ」のコンテンツを充実させるため、近隣の学校や市民団体等にも協力を呼び掛ける。

【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

- ・市の施設や市内の団体等多様な機関と連携し、地域情報の収集と提供に取り組む。
- ・仙台に本拠地を持つプロスポーツチームをはじめ、市民に親しみやすい情報についての展示コーナーの充実に努め、より多くの利用者につながる工夫をする。

方向性 1 地域や市民に役立つ図書館

施策 (4)「学都仙台」を活かして大学図書館等との地域連携を進めます

平成26年度事業概要

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・大学図書館との相互貸借、複写等に関する連携の方策について検討する。
- ・大学図書館と連携した事業を行う。

平成26年度実施状況

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・学都仙台OPAC※に継続して参加した。
平成26年度市内大学図書館への紹介状発行件数 24件(平成25年度 15件)
- ・宮城教育大学図書館と連携に関する覚書を締結した。また、覚書にもとづき資料の相互貸借の試行を開始した。試行期間(平成26年12月から約半年間)終了後、平成27年度中に本格実施を予定。
平成26年度実績 貸出 1冊 借受 2冊
- ・大学図書館との相互貸借により、利用者の調査や知識修得の向上に役立つ、より専門的な資料を利用者に提供できるルートが増え、利用者サービスの向上につながった。

課題・改善策等

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・大学図書館との相互貸借、複写等による連携の実現について引き続き検討する。
- ・大学図書館との連携を強化するため、相互貸借以外の連携事業の実施やレフェラルサービス※の充実等について引き続き協議を進めていく。

方向性1 仙台市図書館協議会の意見

- ・資料に習熟した職員に、利用者が声をかけやすいよう工夫していただきたい。
- ・震災文庫については、先細りになることなく、継続して資料を収集し、効果的な活用に努めていただきたい。
- ・商用データベースは、契約による負担がかかるが、信頼性の高い最新情報が提供できるので、もっと利用が広がるように努めていただきたい。
- ・相互貸借をはじめ、連携を強化する事業の充実にも努めていただきたい。

施策 (1)誰もが使いやすい図書館サービスをめざします

平成26年度事業概要

【高齢者サービスの充実】

- ・選定会議、調整会議等で調整のうえ、大活字本資料※の充実を図る。
- ・高齢者にとって関心の高い分野をテーマとした資料展示や行事を実施する。
- ・拡大読書器の利用を図るため積極的な広報を行う。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・ホームページ等を通して、障害者サービスの積極的な広報を行う。
- ・デージー(DAISY)資料※作成ボランティア養成講座を開催する。

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・選定会議、調整会議等で調整のうえ、外国語資料の充実を図る。
- ・外国人向け図書館配布物等の充実を図る。
- ・外国人向け館内サイン等の作成について検討・実施する。

平成26年度実施状況

【高齢者サービスの充実】

- ・大活字文化普及協会※への会員登録を継続して行い、効率的な資料収集を行った。
- ・選定会議・調整会議等で調整のうえ、大活字本資料の充実を図った。また、軽量で活字の大きな文庫本を積極的に購入した。

平成26年度大活字本受入数 125冊(平成25年度 218冊)

- ・高齢者にとって関心の高い分野をテーマとした資料展示や行事を実施し、貸出やレファレンスの利用につながった。

「充実のセカンドライフ」コーナーを継続して設置し、資料の充実を図った。(市民図書館)

- いきいき健康講座「いつまでも元気に歩くために～ロコモを知って予防しよう～」を開催し、関連資料の展示を行った。(泉図書館)

「シニア元気フィールド」コーナーを設置し、随時テーマを変え展示を行った。(宮城野図書館)

大人向けのDVD上映会において、高齢者も楽しめる作品を上映した。(宮城野図書館)

「シニア向けおすすめ本コーナー」の資料の充実を図った。(若林図書館)

高齢者にも関心の高い地域に関する歴史講座を開催した。(若林図書館、太白図書館)

毎月開催の一般向け映画上映会において、クラシック映画や高齢者の関心が高い作品を多く上映した。

(若林図書館)

介護・医療関係の図書資料コーナーを継続設置し、資料の充実に努めた。(太白図書館)

高齢者に関心の高い朗読CDの充実を図るとともに、引き続き大人向けDVD上映会を開催した。(太白図書館)

シニア向け資料展示「クオリティ・オブ・セカンドライフ」を実施した。(広瀬図書館)

落語に古典童話という題材を盛り込んだ「ひろせ寄席～落語で聞くアンデルセンの世界～」を開催した。

(広瀬図書館)

「大人のための朗読会」において昔話の朗読を行った。(榴岡図書館)

「榴岡図書館の日」の上映会において宮城県図書館より借り受けた宮城県政ニュースのDVDを上映した。

(榴岡図書館)

- ・資料を探しやすくするため、案内表示の拡大や展示コーナーの配置を工夫した。
- ・毎月発行している新刊案内にシニア向け新刊の項目を設け掲載した。(若林図書館)

平成26年度実施状況(続き)

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・心身の障害等により来館が困難な利用者に対し、図書館資料の郵送貸出を行った。
平成26年度郵送貸出延利用者数 3,401人(平成25年度 3,172人)
平成26年度郵送貸出数 7,981冊・点(平成25年度 7,646冊)
- ・障害者サービスを紹介した案内リーフレットを作成し、各館内のほか区役所の障害者サービス窓口や関係団体等で配布した。また、平成27年度の配布に向けて点字版も作成した。
- ・ホームページや市政だより、ミニコミ誌への掲載や地域FM放送を通して、障害者サービスの広報を実施した。
- ・バリアフリー展「読書の楽しさを多くの方に」と題してバリアフリー資料をフロアに特別展示するとともに、ボランティア団体の活動を紹介した。(宮城野図書館)
- ・音訳資料貸出サービスを実施している館では、ポスターを館内に掲示した。
- ・拡大読書器を継続して設置した。(全図書館)
- ・拡大読書器・音声読み上げ機を館内から認識しやすい場所へ移動したうえで継続して設置した。(宮城野図書館)
- ・カウンターに新たに筆談ボードを設置するとともに案内表示を行った。(宮城野図書館、若林図書館)
- ・筆談ボードを継続して設置した。(市民図書館、広瀬図書館、榴岡図書館)
- ・視覚障害のある人への対面朗読サービスを実施した。
平成26年度対面朗読件数 113回(平成25年度 97回)
- ・日本点字図書館(サピエ図書館)に施設登録し、利用者へのデイジー(DAISY)資料の貸出を開始した。
- ・デイジー(DAISY)資料制作ボランティア講座を引き続き実施したほか、利用者向けにデイジー(DAISY)資料の使い方講座を実施した。(宮城野図書館)
- ・視覚障害のある人向けにボランティアの協力により拡大写本の充実を図った。(宮城野図書館)

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・選定会議等で調整のうえ外国語資料の充実を図った。
平成26年度外国語資料受入冊数 301冊(平成25年度 78冊)
- ・外国人向け利用案内(英語・中国語・韓国語)を継続して配布した。
- ・国連防災世界会議に合わせた「3.11震災文庫」展示にあたり、震災資料書架見出し版に英語表示を追加した。
(市民図書館)
- ・外国語資料の書架に各国語(英語・中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・イタリア語)で表記した案内板を設置した。(宮城野図書館)

課題・改善策等

【高齢者サービスの充実】

- ・高齢者に関心の高い資料や大活字本資料の更なる充実を図り、利用者ニーズに対応した情報提供を行う。
- ・高齢者に関心の高い行事や展示を継続して企画・実施し、生涯学習の場の提供を行うとともに、図書館利用の増加につなげる。
- ・高齢者サービスの一環として、若年層にも参加しやすい行事を実施し世代間交流の機会を提供する。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・点字資料も含め多様な広報媒体を用いて障害者サービスの効果的な広報に努め、障害者本人やその家族への周知を図る。
- ・新たに開始したデイジー(DAISY)資料の利用については、更に広報に努め、潜在的利用者の発掘を行う。
- ・拡大読書器、音声読み上げ機、筆談ボード等の設置を継続するとともに、利用者への広報も継続して行う。

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・外国人向けの図書館情報提供の充実を図る。
- ・英語以外の言語での館内表示についても充実を図っていく。

方向性 2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館

施策 (2)どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします

平成26年度事業概要

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・団体貸出等既存制度の活用による市民センター図書室への支援を強化する。
- ・図書ボランティア等を対象とした研修を実施する。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・利用状況や復興公営住宅の整備状況等を勘案し巡回コースを再編する。

平成26年度実施状況

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・既存制度の活用による市民センター図書室への支援の一環として、市民センターに併設されている児童館図書室に除籍済資料を無償譲渡した。(太白図書館)
- ・市民センターからの要請を受けて、図書ボランティア養成講座等に講師を派遣し、地域での読書活動の活性化に努めた。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・利用状況を勘案し巡回コースの組み替えと時間の調整を行った。
- ・平成26年度に新設した荒井東復興公営住宅駐車場への巡回は、復興公営住宅の工事の遅れのため11月に開始した。
- ・老朽化した移動図書館車の一部更新に向け準備を行った。

課題・改善策等

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・図書館除籍済資料の無償譲渡及び市民センター主催のボランティア養成講座等への講師派遣を引き続き行っていく。
- ・図書館で養成したボランティアが地域で活動する機会を広げていくための取り組みを検討する。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・老朽化した移動図書館車両のうち1台の更新準備中であるが、残り2台の老朽化も進んでいる。
- ・移動図書館サービスの巡回コースについては、今後とも利用状況や仮設住宅の入居状況等を勘案し、検討を行っていく。
- ・市民センターの活用を含めた館外サービスのあり方について、関係機関と協議していく。

方向性2 仙台市図書館協議会の意見

- ・外国人の利用状況の把握に努め、国際都市仙台にふさわしい図書館づくりとサービスの工夫をしていただきたい。
- ・図書館から遠い地域の市民にもサービスが届くための施策に取り組んでいただきたい。

施策 (1)子どもの年齢に応じた図書サービスを提供します

平成26年度事業概要

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・乳幼児向けおはなし会等を継続して実施する。
- ・乳幼児及び保護者向け行事を継続して実施する。
- ・両親教室等の機会を活用した啓発事業の実施について関連部署と協議・検討する。
- ・乳幼児保護者向けブックリストの内容について検討する。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・図書館で活動する中高生選書アドバイザー※によるおすすめの本の紹介などの情報発信を継続して行う。
- ・図書館ホームページ内に設置する中高生向けコンテンツの内容について検討する。
- ・図書館ホームページ内に本の感想等の掲載について検討する。
- ・小学校及び中学校の新1年生向け図書館利用案内を作成し配布する。
- ・高等学校新1年生向け図書館利用案内の内容について検討する。

平成26年度実施状況

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・各種おはなし会を継続して実施し、読み聞かせの楽しさや大切さを伝えた。
乳幼児向けおはなし会
平成26年度実施回数 151回(平成25年度 115回) 参加者数 3,687人(平成25年度 2,840人)
- ・幼児向けおはなし会(幼児から小学校低学年対象)
平成26年度実施回数 386回(平成25年度 393回) 参加者数 6,325人(平成25年度 6,316人)
- ・「赤ちゃんを楽しむ絵本とわらべうたの会」などの乳幼児及び保護者向けの行事
平成26年度実施回数 26回(平成25年度24回) 参加者数 687人(平成25年度 551人)
- ・年間のおはなし会開催日程が掲載されており、参加時にシール等を貼付することができる「おはなし会ノート」を参加者に配布した。(若林図書館、太白図書館)
- ・生涯学習課が主催する仙台市子ども読書活動推進会議に参加し、両親教室等の機会を活用した啓発事業の実施等について関連部署と協議・検討を行った。(市民図書館、泉図書館子供図書室)
- ・乳児健診が行われる各区の保健福祉センターや、乳幼児と保護者が訪れる各区の子育て支援施設や児童館等で小冊子「あかちゃんの絵本」を配布した。
- ・各館での行事開催時に小冊子「あかちゃんの絵本」を配布したり、一部の館では掲載本のコーナーを設置した。
- ・小冊子「あかちゃんの絵本」に続く乳幼児保護者向けブックリストの内容について検討した。
- ・他都市発行の乳幼児保護者向けブックリストの作成状況等について情報収集を行った。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・中高生のボランティア(選書アドバイザー、選書サポーター)による中高生向けの本の選書やブックリストの作成を通して、中高生に対するおすすめの本の紹介などの情報発信を継続して行った。(広瀬図書館)(榴岡図書館)
- ・図書館ホームページ内に設置する中高生向けコンテンツの内容について検討した。
- ・図書館ホームページ内に本の感想等を掲載する方法・内容等について検討した。
- ・小学校及び中学校の新1年生向け図書館利用案内を作成し、学校を通して市内全児童・生徒に配布した。
小学校新1年生向け図書館利用案内「としょかんへいこう！」 配布校数 134校 配布枚数 9,943枚
「ようこそシール」 594枚
中学校新1年生向け図書館利用案内「図書館にいこうよ！」 配布校数 79校 配布枚数 10,366枚
- ・小学校新1年生向け図書館利用案内に掲載したおすすめの本の特集展示を行った。(太白図書館)
- ・平成27年度の作成・配布に向け、高等学校新1年生向け図書館利用案内の内容について検討を行った。
- ・小学生向けにおはなし会や工作教室、ブックトーク※、一日図書館員、映画会、中高生向けには本の紹介やビブリオバトル、ボランティア体験等、子ども達が体験したり図書館員と交流できる様々な読書支援サービスを行った。ビブリオバトルは、初心者でも気軽に体験できるよう方法を工夫して行った。
- ・中高生向けの図書資料や行事を紹介する「YA通信」※を発行し、全市立中学校及び高等学校等に配布するなど広く情報を発信した。(泉図書館子供図書室)
- ・職場見学・体験学習等の積極的な受入れを継続して実施し、図書館や読書への興味・関心をより深める機会を提供した。

課題・改善策等

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・乳幼児向けおはなし会は人気が高く、毎回多くの参加があるため、回数や日程を検討し参加の機会を増やす。
- ・乳幼児保護者向けブックリストの作成に向け、引き続き内容を検討する。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・図書館ホームページ内に中高生向けコンテンツを掲載し、年齢層に応じた読書支援サービスを行う。
- ・図書館ホームページ内に本の感想等を掲載し、子どもの読書意欲を高める工夫を行う。
- ・既に配布を開始している小学生及び中学生新1年生向け図書館利用案内に続いて、高等学校新1年生向け図書館利用案内を作成・配布し、読書活動推進に努める。

施策 (2)障害のある子どもの状況に合った図書サービスを提供します

平成26年度事業概要

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・触る絵本※や点字付き絵本、LLブック※等、障害のある子どもたちの読書活動の推進に向けた資料を継続して収集する。
- ・触る絵本等の関連資料所蔵リストの作成と、ホームページ等での公開を継続して行う。
- ・マルチメディアデイジー(DAISY)※利用のための機器を継続して設置、共用する。

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・特別支援学校等のニーズにあった資料を収集し貸出用資料の充実を図る。
- ・市内特別支援学校の他、市立小・中学校の特別支援学級への案内と資料提供を行う。
- ・利用校に対するアンケート調査を実施し、調査結果の分析に基づく改善に取り組む。

平成26年度実施状況

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・泉図書館子供図書室のユニバーサルコーナーをはじめ各館で、触る絵本や点字付き絵本、LLブック等、障害のある子どもたちの読書活動の推進に向けた資料を継続して収集した。
- ・各図書館で触る絵本等の関連資料所蔵リストを配布するとともに、図書館ホームページにもリストを掲載した。
- ・マルチメディアデイジー(DAISY)利用のための機器を継続して設置し、利用に供した。(泉図書館子供図書室)
平成26年度利用回数 1回(平成25年度 2回) 利用者数 1人(平成25年度 2人)
- ・マルチメディアデイジー(DAISY)の利用促進に向けて、特別支援教育指導改善研修等で周知・広報を行った。
- ・手話を使った「手ではなすおはなしの会」を実施した。(市民図書館)
平成26年度実施回数 2回(平成25年度 0回) 参加人数 64人(平成25年度 0人)

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・特別支援学級からの要望が多かった音の出る絵本、触る絵本を中心に収集を行い、貸出用資料の充実を図った。
- ・特別支援学校・学級専用資料についてのチラシを作成し、市内特別支援学校と市立小・中学校の特別支援学級へ配布し、資料提供を行った。
特別支援学校等貸出サービス利用校 16校 (のべ40校) (平成25年度 2校)
- ・利用校16校に対しアンケート調査を実施し、うち12校から回答を得た。アンケート等で要望の多かった資料を収集し充実を図ったことにより貸出が増加した。
- ・特別支援教育指導改善研修及び仙台市小学校教育研究会学校図書館研究部会で、資料の特長や活用方法を周知したところ、貸出数が大きく伸びた。また、学校連携事業説明会では、マルチメディアデイジー(DAISY)の利用促進についてPRを行った。

課題・改善策等

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・障害のある子どもたちの読書を助ける資料の積極的な収集により、資料の一層の充実に努める。
- ・触る絵本等の関連所蔵リストを更新し、ホームページ等を活用して情報の提供を行う。
- ・マルチメディアデイジー(DAISY)は利用が伸びていないため、利用促進に向けて研修会等で継続して周知・広報を行う。

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・利用校のニーズに基づいた資料の選定を行い、市内特別支援学校等への貸出資料の一層の充実に努める。また、利用の多い資料は複本を購入し、貸出希望に沿える体制を整える。
- ・特別支援学校等への貸出サービスを関係者に周知するため、継続してチラシの配布を行い広報に努める。
- ・貸出リストに種類毎の説明を加える等、資料の内容がより伝わりやすい工夫を行うとともに、リストを随時更新し、新たに収集した資料についても情報の提供を行う。

施策 (3)子どもの創造性を育む読書環境を支える輪を広げます

平成26年度事業概要

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

- ・「子ども読書支援パック※」や大型絵本等、おはなし会や行事等活動に必要な貸出用資料の充実と積極的な広報を行う。
- ・保育所等に対する除籍済資料の無償譲渡による資料の提供を行う。
- ・児童館等職員、ボランティアからの資料相談等へ積極的に対応する。
- ・児童館等主催の子どもの読書に関する講座等へ図書館職員を派遣する。

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーター※の育成】

- ・中高生への読書支援を目的として、中高生による同世代に向けた読書情報チラシの作成と情報の発信を行う。

平成26年度実施状況

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

- ・「子ども読書支援パック」の資料の充実を図ったことにより、関係施設への貸出が増加した。
平成26年度追加作成パック数 4種類8パック
平成26年度末現在パック数 66種類144パック(平成25年度末現在 56種類130パック)
平成26年度貸出件数(保育所・幼稚園・児童館) 133件(平成25年度 119件)
- ・「子ども読書支援パック」に、児童館等関係施設から施設内での閲覧用として要望の多かった読み物や図鑑等の資料を取り入れた。
- ・小道具パックは10点を1パックとしていたが、平成27年度に向けより利用しやすくするためパックの点数等の見直しを行い、多くの利用者に小分けして貸出できるようにした。
- ・「子ども読書支援パック」を活用してもらうため、引き続き児童館・保育所等関係施設に文書で案内するとともに、ホームページへの掲載等により周知を図った。
- ・保育所等に対する、除籍済資料の無償譲渡により、資料を有効に活用することができた。
平成26年度提供数 9件 1,868冊(平成25年度 14件 721冊)
- ・児童館等職員、ボランティアからの相談に対して、年齢やテーマに応じた資料の紹介や読み聞かせの技術等のアドバイスを積極的に行った。また、子どもの本の展示会等で過去に作成したリストについて、選書の参考にもらえるように館内で配布した。
- ・児童館等主催の子どもの読書に関する講座等への図書館職員の派遣を行った。
平成26年度派遣件数 11件(平成25年度 9件)

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】

- ・子育て支援施設のびすく泉中央(4F中高生プラザ)と泉図書館ヤングアダルト※コーナーに、中高生のおすすめ本投稿ボックスを継続設置し、収集した情報を泉図書館ヤングアダルトコーナーに掲示して同世代に向けた情報を提供した。宮城野図書館においても昨年度に引き続き、同様に投稿ボックスの設置と収集した情報の掲示を行った。
平成26年度掲示件数 31件(平成25年度 48件)
- ・中高生のボランティア活動の場として、図書館での配架作業等の体験会と懇談会を実施した。(若林図書館)

課題・改善策等

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

- ・対象施設への文書による案内やホームページへの掲載、ポスター掲示等を通じて「子ども読書支援パック」貸出事業の特長や改善内容等をより分かりやすく紹介し、利用促進に努める。
- ・年1回開催している除籍済資料の無償譲渡会について周知を図るとともに、開催場所や日程等、対象施設にとつてより利用しやすい譲渡のあり方を検討する。

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】

- ・市内の中学校に配布している「YA通信」等で、おすすめ本の投稿の呼びかけや掲示の紹介を継続して行う。
- ・図書館サポーターの育成に向け、学校図書事務員と連携を取りながら情報を収集して、中高生の興味・関心を高める工夫を行っていく。
- ・子供図書室で活動する中高生ボランティアについて、育成の方法やボランティアによる企画・展示等の実施について検討する。

施策 (4)子ども読書を進めるために家庭、地域、学校などとの連携を深めます

平成26年度事業概要

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・パッケージ貸出※や学校貸出※のための資料の充実による貸出強化を図る。
- ・防災教育における震災関連資料の活用について関連部署と協議・検討する。
- ・公共図書館利用学習を継続して支援する。
- ・子どもの本の案内等の図書館発行物による学校への情報提供を継続して行う。
- ・市立小学校等に対する除籍済資料の無償譲渡を継続して行う。
- ・学校連携事業の利用状況調査及びアンケートを継続して実施し事業の充実を図る。
- ・図書館職員、ブックトーク※ボランティアによるブックトークを継続して実施する。
- ・ブックトークボランティアの養成講座、レベルアップ講座を継続して実施する。

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・子ども読書支援パック等による、地域施設・ボランティア等に対する資料や情報の提供支援の強化を図る。
- ・職員やボランティアに対する研修・講座を実施する。
- ・ボランティアへの活動の場の提供と市民団体に関する情報の提供を積極的に行う。
- ・文庫活動支援のための貸出資料の充実と資料選定のための定期的な情報提供を行う。
- ・地域施設やボランティアとの連携、協働による子ども読書推進のための行事を実施する。

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・図書館全館において、春・秋の子ども読書フェスティバルを活用した、子どもの年齢に応じたおすすめ資料やテーマ別資料の企画展示による家庭・地域への情報の提供等を継続して実施する。
- ・子育て支援施設のびすく泉中央と連携した事業を継続して実施し図書館利用の拡大を図る。

平成26年度実施状況

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・パッケージ貸出、学校貸出を資料の充実を図りながら継続して実施した。
 パッケージ貸出利用校 76校(平成25年度 70校) 延べ貸出回数 116回(平成25年度 119回)
 学校貸出校 延べ340校(平成25年度 延べ316校) 貸出冊数 16,645冊(平成25年度 15,027冊)
- ・パッケージ貸出の「テーマ別パッケージ」に、小学校高学年向けの新たなテーマとしてキャリア教育に活用可能な「お仕事パック」と防災教育にも活用可能な「防災パック」を追加した。
- ・公共図書館利用学習への支援を継続して実施した。
 図書館見学、調べ学習 受入校 47校(平成25年度 61校)
- ・図書館発行物(子どもの本の案内等)により学校への情報提供を行った。
- ・市立小学校に除籍済資料を無償譲渡し、資料の有効活用を図った。
 譲渡先 21校 譲渡冊数 2,633冊(平成25年度 20校 2,279冊)
- ・市立小中学校全校を対象として学校連携事業に関するアンケート調査を実施し、学校の事業の要望を把握した。
- ・図書館職員による小中学校へのブックトークを継続して実施した。
 利用校143校(平成25年度 142校)
- ・学校図書室担当者等向けの研修へ図書館職員を派遣した。
 派遣件数 4件(平成25年度 5件)
- ・ブックトークボランティアによる小中学校へのブックトークを継続して実施した。
 利用校 35校(平成25年度 24校)
- ・ブックトークボランティアの養成講座、ステップアップ講座を実施した。講座により学校で活動するボランティアが増え、ブックトーク事業の充実につながった。
 実施件数 2件(平成25年度 2件)
- ・職場見学・体験学習等の積極的な受入れを継続して実施した。(各館)

平成26年度実施状況(続き)

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・「子ども読書支援パック」の貸出と資料の充実を図った(再掲)
平成26年度貸出件数(ボランティア等) 198件(平成25年度 187件)
- ・職員やボランティアに対する読み聞かせやストーリーテリング※など子どもの読書に関する研修・講座を実施した。
平成26年度実施件数 13件 参加者数 364人(平成25年度 14件 298人)
- ・ボランティアの協力を得ながら対象年齢別のおはなし会を積極的に実施した。
平成26年度読書活動推進ボランティアの延べ活動人数 677人(平成25年度 605人)
- ・ボランティア団体の活動情報を募集し、集まった情報を館内に掲示し紹介し、相互の情報共有を図った。
- ・図書館を利用する機会の少ない子どもにも本に親しむ機会を提供できるように家庭文庫・地域文庫への貸出を継続して行った。
平成26年度文庫登録数 27件(平成25年度 27件)
平成26年度貸出件数 76件(平成25年度 134件)
平成26年度貸出冊数 3,650冊(平成25年度 4,707冊)
- ・家庭文庫、地域文庫※の希望等を聞き取り、実情に合わせて文庫貸出用資料の充実を図った。また、寄贈本や除籍済資料を提供した。
- ・文庫活動を支援するため、文庫の会の勉強会でブックトークの手法、新刊案内の配布や本の紹介等の情報提供を行った。また、文庫との懇談会等を開催した。
- ・地域の児童館や市民センターと連携し、各種事業に出向いておはなし会を実施したり、社会教育施設への展示用資料の提供等を行った。
- ・文庫やボランティアなどと連携して講演会・講座等の事業を行った。
平成26年度実施件数 3件 参加人数 410人
- ・文庫を通じて絵本のキャラクター人形及び写真絵本の元となった写真を借用し、館内展示を行った。
(若林図書館)

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・図書館全館において春・秋の子ども読書フェスティバルを開催し、特別おはなし会等により子どもが本に親しむための働きかけを行うとともに、おすすめ本の企画展示や児童文学者講演会を通して、家庭・地域への情報の提供を行った。
- ・図書館見学等の来館時に、園児や児童を通じて各家庭へ図書館のおはなし会の案内などPRパンフレットを配布し、その後の利用拡大につながる広報を行った。
- ・子育て支援施設のびすくと連携したおはなし会の実施や子育て支援通信等の情報誌配布、行事ポスターの掲示等、利用拡大に向けた取り組みを継続して行った。
のびすくでのおはなし会実施回数 8回 参加者数 333人(平成25年度 7回 358人)
- ・地域の保育所や幼稚園が園外保育で来館する際に、希望に応じて臨時おはなし会を実施し、園児を通じて各家庭へ図書館のおはなし会の案内などPRパンフレットを配布した。
- ・これまで行ってきた子どもの読書活動推進のための取り組みを評価され、「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受けた。(市民図書館)

課題・改善策等

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・より多くの子どもたちが読書に親しめるよう、学校貸出資料の精選やブックトークボランティアの養成とスキルアップ等、多面的に事業の質の向上を図っていくとともに事業の周知に努める。
- ・学校での朝読書活動を支援するため、パッケージの本を入れ替え、更に資料の充実を図る。
- ・教科書変更に伴う新たな学校貸出依頼に対応するため、必要な資料の充実を図る。
- ・防災教育・キャリア教育等、学校教育に必要な資料を充実し貸出強化を図る。
- ・公共図書館利用学習を継続して支援し、実施していない学校には利用を働き掛ける。
- ・子どもの本の案内等の図書館発行物による学校への情報提供を継続して実施する。
- ・市立小学校等に対する除籍済資料の無償譲渡を継続して行い、学校図書室の充実を図る。
- ・学校連携事業に関するアンケート調査を継続して実施する。
- ・図書館職員、ブックトークボランティアによるブックトークを継続して実施し、子どもの読書意欲を高める。
- ・ブックトークボランティアの養成講座、レベルアップ講座を継続して実施するとともに、学校図書室関係者向けのブックトーク研修を実施する。
- ・職場見学・体験学習等の積極的な受入れを継続して実施し、学校教職員の理解を深める。

課題・改善策等(続き)

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・「子ども読書支援パック」等の更なる広報に努め、地域施設・ボランティア等に対する資料や情報の提供支援の強化を図る。
- ・各種ボランティアの養成とスキルアップのための研修、本の情報提供を継続して行うとともに、ボランティアの活動情報の発信と相互交流を促進し、活動の活性化に向けて支援していく。
- ・文庫活動支援のため、貸出資料の充実や活動に役立つ情報提供を継続して行う。
- ・地域施設やボランティアと連携・協働し、継続して子ども読書推進のための事業を行う。

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・子ども読書活動を推進するため実施している各種事業や取組みについて、引き続き子育て支援施設等関係機関と協力しながら各家庭への周知等を図り、より効果的に進めていく。

方向性3 仙台市図書館協議会の意見

- ・保護者と子どもが本に触れられるイベントを実施する等、保護者に読書活動推進の意義を理解してもらえるよう働きかけていただきたい。
- ・小学校では学校図書館が充実しよく利用されているが、中学校、高校につながっていないのが課題である。泉図書館の子供図書室が、全市的に子どもの読書を支える役割を担っているので、特に中高生に対する取り組みを充実させていただきたい。
- ・0歳から読書に親しめる読書文化を育む活動について、保健所等の関係部署と連携して、小さい頃から読書活動に親しむという環境づくりに努めていただきたい。

施策 (1) 仙台市民の財産として資料の収集・保存を計画的に行います

平成26年度事業概要

【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】

- ・利用者ニーズを把握し、特定の分野に偏ることなく、公平性、有効性を考慮し、可能な限り幅広く資料を収集する。
- ・書庫資料に係る除籍作業を計画的に実施する。

平成26年度実施状況

【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】

- ・集中選書会議等を定期的に行い、資料の配置館の検討を行い、各図書館の資料の分担収集を進めた。
- ・分担収集により、資料の保存分野に特色を持たせた図書館づくりを進めることができ、図書館全体として効果的に資料の充実を図ることにつながった。また、各館の限られた資料収蔵スペースを有効に活用することができた。
- ・「仙台市図書館資料取扱要項」に基づき各図書館の資料の除籍作業を計画的に実施し、収蔵スペースの確保と除籍資料の有効活用(市民センター等への譲渡)に努めた。
- ・新市立病院等の地域の医療機関に図書館の除籍済資料を無償譲渡した。(太白図書館)
- ・計画的な除籍作業により保存資料の収蔵スペースの確保に努めた。

課題・改善策等

【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】

- ・市民の課題解決や学習のために必要な資料を計画的に収集し、蔵書の充実を図るため、分担収集の推進や選書会議等による調整を行っていく。
- ・計画的な除籍作業を行い所蔵資料の整理を継続して行うとともに、学校図書室や保育所、市民センター等での除籍資料の有効活用を更に進める。

施策 (2) 図書館像を共有して市民と共に図書館づくりを進めます

平成26年度事業概要

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・マスコミ等へ積極的な広報を行う。
- ・区民まつり、文化センターまつり等への参加により、図書館サービスについての情報を発信する。
- ・ホームページでの図書館だよりの発信について検討する。

【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】

- ・図書館で活動するボランティアを対象とした研修を実施する。
- ・ビブリオバトル[※]など市民との協働事業を実施する。

平成26年度実施状況

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・行事開催の案内等を市政だよりやフリーペーパー等に掲載するほか、商業施設にも展示した。
- ・図書館を利用したことのない区民向けに「若林図書館だより 特集号」を作成し、区内証明発行センター、公共施設、郵便局、一部銀行に設置した。(若林図書館)
- ・おはなし会の年間スケジュールを載せた子ども向けの「若林図書館のごあんない」を作成し、区内幼稚園、児童館、小学校等にポスターと併せ送付した。(若林図書館)
- ・若林区中央市民センターで毎月開催している映画会の参加者に、若林図書館の映画上映会のチラシを配布した。(若林図書館)
- ・多様な機関や市民団体との連携、行事・事業への参加等により、図書館サービスについて情報を発信した。メディアテークと共催で、1階オープンスクエアにおいて、様々な企画展示を行う「スクエア図書館」を実施した。(市民図書館)

宮城野区中央市民センターまつりに参加し、DVD上映会を実施(宮城野図書館)

宮城野区文化センター震災復興交流事業で、関連事業としてDVD上映会を実施したほか、宮城野区文化センターと共催の「私のこの一冊」で、事業関係者から推薦された本の展示を実施(宮城野図書館)

みやぎの区民協議会子育て支援部会主催の「親子・あったかフェスタ」に参加し、おはなし会と資料展示を実施(宮城野図書館)

若林区中央市民センターと共催で、秋休み中の10月13日に「ワカチュウ子どもランド」おはなし会を実施(若林図書館)

若林区文化センター及び若林区中央市民センターと共催で、「七夕スペシャルおはなし会」と関連図書の展示を実施(若林図書館)

太白区中央市民センター主催イベントに参加し、映画鑑賞会を実施(太白図書館)

「宮城地区まつり」に参加し、ボランティアとの協働によるおはなし会を実施(広瀬図書館)

仙台市天文台の「天文台まつり」に参加し、おはなし会を実施(広瀬図書館)

国立仙台高等専門学校広瀬キャンパスの「高専祭」に参加し、資料展示を実施(広瀬図書館)

「みやぎの・まつり」に参加し、読み聞かせボランティアとの協働によるおはなし会等を実施(榴岡図書館)

「宮城野通・榴岡公園活性化委員会」主催の「ウィンターパーティーin榴岡公園」に参加し、ワークショップ(オリジナルカード、しおり作り)、おはなし会等を実施(榴岡図書館)

- ・ホームページに「レファレンス事例集」、「子どものページ」の「テーマべつリスト」(子ども向けの本の種類別リスト)、「障害のある方へのサービス」の案内を追加して図書館からの情報を発信した。

平成26年度実施状況(続き)

【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】

- ・ボランティアや市民の協力を得て、各館で多様な取り組みを行った。
 - ボランティアによるおはなし会を各館で実施した。
 - 市民が参加できるイベント「Book! Book! Sendai 2014」において、大人向けブックトークを実施した。
(市民図書館)
- 市民活動団体と連携して「仙台短編映画祭」に関連するテーマ展示を行った。(市民図書館)
- 市民活動団体との協働により「としょかん・メディアテークフェスティバル」を開催し、ビブリオバトル、トークイベント「公共図書館の祖 青柳文庫と青柳文蔵」及びおはなし会を実施した。(市民図書館)
- 読書週間にボランティアと職員等で「おすすめの本」のポップを作成し、本とともに展示した。(泉図書館)
- ボランティアの協力を得て、利用者からリクエストのあった資料を拡大写本として作成した。(宮城野図書館)
- 「広瀬図書館まつり」において、ボランティア団体との協働による「おはなし会リレー」を実施した。(広瀬図書館)
- 朗読ボランティア団体の協力により、大人向けの朗読会を実施した。(榴岡図書館)
- 大人向けの読書活動である「ひろせ読書会」を実施し、読書会で選ばれた資料を「広瀬図書館まつり」で展示した。(広瀬図書館)
- 利用者を対象に「おすすめの本」についてのアンケートを実施し、アンケート結果を展示するとともに結果をまとめた冊子「あなたのおすすめ本を教えてください」を発行した。(榴岡図書館)
- ・音訳資料制作ボランティア講座(宮城野図書館)、対面朗読ボランティアスキルアップ講座(太白図書館)をはじめ、図書館で活動するボランティアを対象としたボランティアスキルアップ講座を実施した。
- ・図書館で活動するボランティアとの懇談会を実施し、職員との相互理解をし、図書館サービスの改善に努めた。
- ・館内にポスターを掲示して、図書館ボランティア(配架・書架整理)の募集を行ったところ、登録者が大幅に増加した。

課題・改善策等

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・図書館行事開催等の広報については、引き続き効果的な広報手段を検討しながら、積極的な情報発信、継続した広報に努める。
- ・地域イベント等における図書館サービスの情報発信については、各イベントが持つ性格や特色に合わせて図書館の利用促進に効果的につながるような方法・内容について引き続き検討していく。
- ・ホームページの資料案内を随時更新し、内容の充実を図る。

【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】

- ・引き続きボランティアの活動のレベルアップを図るため、研修を企画し実施する。
- ・ボランティアとの懇談会を引き続き実施し、図書館職員とボランティアとの相互理解と情報・認識の共有化を図る。
- ・新たに参加を希望するボランティア団体への活動の場の提供や、広報等によるボランティアの募集等、ボランティアの拡大に向けた取り組みにも努める。
- ・多様な市民団体等との連携を図り、図書館サービスの情報発信を進める。
- ・誰にでも参加しやすい読書会のあり方を検討し、読書体験を共有する機会の提供を拡大するとともに、資料展示による活動発表を兼ねた利用者広報の内容を充実させる。

施策 (3) 図書館資源を適正に配分し有効に活用します

平成26年度事業概要

【システムやサービスのあり方の見直し】

- ・図書館コンピュータシステム更新に向けた検討を行う。
- ・図書館サービス評価を踏まえた業務の見直し・効率化へ取り組む。
- ・若林図書館へ指定管理者制度を導入するため、指定管理者の公募、選定を行う。

【ICタグ※の計画的な導入】

- ・ICタグ未導入館への導入について費用対効果を踏まえた検討を行う。

平成26年度実施状況

【システムやサービスのあり方の見直し】

- ・次期図書館コンピュータシステム更新に向け、図書館サービス検討ワーキンググループを設置し、基本構想の策定に向けた検討を行った。
- ・若林図書館への指定管理者制度導入に向け、指定管理者の公募、選定を行い、平成27年度当初の指定管理者制度導入に向け協定書を締結した。

【ICタグ※の計画的な導入】

- ・次期図書館コンピュータシステムの更新に合わせたICタグの導入可能性について検討し、経費や機能概要を把握した。

課題・改善策等

【システムやサービスのあり方の見直し】

- ・次期図書館コンピュータシステム更新について、現行の図書館サービスに加え今後の図書館サービスのあり方等も検討しながら、更に準備を進めていく。
- ・若林図書館の指定管理者について、指導監督にあたりとともに、運営について検証を進める。

【ICタグ※の計画的な導入】

- ・ICタグ導入館の状況や他都市の導入状況調査結果等も踏まえ、費用対効果を踏まえつつICタグの新規導入について検討する。

施策 (4) 図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行います

平成26年度事業概要

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・図書館協議会による評価を取り入れた図書館サービス評価を継続実施する。
- ・図書館全館で利用者向けアンケート調査、利用者懇談会を実施する。

平成26年度実施状況

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・仙台市図書館振興計画に基づき実施した事業が、地域や市民にどのような効果をもたらしたのか図書館が点検・自己評価を行い、第三者による評価として仙台市図書館協議会から図書館の自己評価等に対する意見をもらい報告書としてまとめ市民に公表した。
- ・市民の意見や要望を把握し、市民に対してよりよいサービスが提供できる図書館経営を行うため、仙台市図書館全館において利用者向けアンケート調査や利用者懇談会を実施した。
- ・過去の利用者向けアンケート調査結果及び調査で得られた意見・要望に対する改善点について掲示を行った。
- ・直営館において窓口サービスアンケート調査を実施した。
- ・指定管理者制度導入館に対して管理運営に係るモニタリング・評価を実施し、ホームページで公表した。

課題・改善策等

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行っていくため、第三者による事業評価、利用者アンケート調査、利用者懇談会を引き続き行っていく。
- ・図書館を利用していない市民に対する意識調査の実施について検討する。

施策 (5) 図書館職員の資質の向上に努めます

平成26年度事業概要

【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】

- ・障害者向けサービスに関する継続的・計画的な職員研修を実施する。他機関実施研修へ参加する。
- ・児童サービスに関する専門的知識を身につけるための職員研修を実施する。他機関実施研修へ参加する。

【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・専門機関等の実施する研修へ継続して参加する。

平成26年度実施状況

【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】

- ・障害者サービスに詳しい外部講師による研修を全職員を対象に実施した。
- ・障害者サービス担当職員養成講座(日本図書館協会主催)において、公共図書館における障害者向けサービスに関する講義を受講した。
- ・児童サービスに関する専門的知識を身につけるための職員研修として、ブックトーク研修やストーリーテリング研修を実施した。

【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・公共図書館の資料デジタル化に関する研修として、国立国会図書館主催による「国立国会図書館資料デジタル化研修」に参加した。
- ・国立国会図書館がデジタル化した資料の活用に関する研修として、国立国会図書館主催による「国立国会図書館デジタル化資料活用セミナー」に参加した。
- ・図書館サービスのあり方に関する研修として、北日本図書館連盟主催による「北日本図書館大会」に参加した。

課題・改善策等

【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】 【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・より多くの職員が研修に参加できるよう、研修日時や業務スケジュールを考慮して職員研修を実施する。
- ・今後も宮城県図書館や国立国会図書館が実施する研修・講座等に積極的に参加し、職員の資質向上を図っていく。
- ・社会の変化に対応して、図書館が地域の情報拠点として役割を果たすため、高い意識を持った職員の養成に努め、継続的に研修を受けられるように配慮する。

方向性4 仙台市図書館協議会の意見

- ・利用者カードを持つ人を増やすことを目指して、親子に的を絞った広報等も試みていただきたい。
- ・図書館の利用者アンケートに加え、利用していない市民の意向も調査できるような取り組みを引き続き検討していただきたい。

ICタグ

ICチップ(パッケージされた半導体集積回路)と小型アンテナを埋め込み、電波により情報の読み書きを行うことができる技術。容器等に入っている読み取りや書き換えも可能であるため、資料に貼付・入力することで、無断持ち出しの抑制や蔵書点検期間の短縮等が期待できる。

LLブック

知的障害や自閉症の人などに向けて、イラストや絵文字等を使って分かり易く読み易いように編集された本。LLとは、スウェーデン語のLätt Lästの略語で、「やさしく読める」という意味。

学都仙台OPAC

学都仙台OPAC:学都コンソーシアム(大学等の加盟校同士や、加盟校と市民・企業・行政等との協業を推進する機関)加盟校等の蔵書目録を同時に検索できるもの。

OPAC(Online Public Access Catalog)とは、図書館のオンライン蔵書目録のこと。

学校貸出

小・中学校向けに、教科指導等で活用できる本などを100冊まで貸出すること。

家庭文庫、地域文庫

自宅や地域の集会所等で、主に子ども向けに本の貸出や読み聞かせ等を行う活動。

国立国会図書館総合目録ネットワーク

国立国会図書館による、県域を越えた公共図書館の和図書の総合目録ネットワーク。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステム

国立国会図書館が総務省と協力して、国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステムを構築したもの。国立国会図書館東日本アーカイブは関連機関と連携して震災の記録等を分担収拾・保存し、国内外に発信することを目的としている。愛称は「ひなぎく」。

国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が、全国の公共図書館・大学図書館・専門図書館等と協同で構築しているデータベース。一般の方々の情報探索、図書館員のレファレンス業務に役立つような情報を参加館が日々登録・更新・蓄積している。

国立情報学研究所による目録所在情報サービス

国立情報学研究所によるサービスで、参加する図書館が所蔵する資料の書誌情報と所在情報をオンラインでデータベース化し、所在情報データベースを利用して、それぞれの図書館が自館で所蔵していない資料を相互に提供するサービス。

国連防災世界会議

国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議。第3回国連防災世界会議は、2015年3月14日(土)～18日(水)に仙台市で開催された。第1回(1994年:横浜)、第2回(2005年:神戸)の会議とも、日本で開催されている。東日本大震災の被災地である仙台市で第3回会議を開催することは、被災地の復興を世界に発信するとともに、防災に関する経験と知見を国際社会と共有し、国際貢献を行う重要な機会となった。

子ども読書支援パック

子供読書活動の推進に関わる活動を行っている施設、団体、個人向けに貸し出すため、絵本や紙芝居などを5～50点程度まとめたもの。

触る絵本

触素材をページに貼り付けるなどして絵を構成した絵本で、絵が触って分かるため、視覚障害者も健常者も楽しめるよう工夫されたもの。

3.11震災文庫

仙台市民図書館では、東日本大震災に係る被災状況について後世に伝えるとともに、震災からの復興や生活再建を支援するため、「3.11文庫」として、関連する様々な資料を収集し、閲覧、貸出を行っている。

商用データベース

データベースとは、事典や新聞記事など大量のデータを集めて整理・統合し、検索などをしやすくしたもの。企業などが開発・販売し、インターネット等で提供されるものが商用データベースであり、制作者によって常に管理・更新され信頼性が高い。

ストーリーテリング

語り手が本を持たずに、言葉だけでお話を語ること。「素話」ともいう。

大活字文化普及協会

大活字本普及のための広報活動、弱視者(低視力者・高齢者)の図書館利用促進等に係る事業を実施している特定非営利法人。大活字文化普及協会へ会員登録することにより、大活字本を通常より低額で購入することができる。

大活字本資料

一般に刊行されている図書の文字サイズでは読みにくい人のために、大きな活字で印刷された図書。

中高生選書アドバイザー

アドバイザーとして選書支援を行うことを通して、自らが積極的に図書館づくりに関わる中学生、高校生ボランティアのこと。

中高生による図書館サポーター

中学生、高校生への読書支援を目的として、同世代に向けた情報の発信を行う中学生、高校生ボランティアのこと。

デイジー(DAISY)資料

視覚障害者や普通の印刷物を読むのが困難な人々のための、カセットに代わるデジタル録音図書。見出しからすぐに必要な情報が探せるなど、情報検索に優れている。

ハイブリッドレファレンスサービス

紙の図書資料のみではなく、電子資料やインターネット情報等、複数の手段で利用者が求める資料や情報を提供あるいは提供する手助けをするサービス。

パスファインダー

特定のトピックやテーマ(主題)に関する資料や情報を収集する際に、図書館が提供できる関連資料の探し方が一覧できる案内。

パッケージ貸出

小・中学校向けに、需要が高い資料(朝読書用パッケージ120冊、テーマ別パッケージ40冊)をまとめたパックを作り、申し込みに応じてパックごと貸出をすること。

ビブリオバトル

他の人に薦めたい本を紹介し合い、どの本が一番読みたくなったかを参加者が投票しチャンプ本を決める「知的書評合戦」といわれるイベントのこと。

ブックトーク

あるテーマに沿って、さまざまな種類の本を順序だてて紹介すること。子どもと本をむすびつけるのに効果的な手法のひとつ。

マルチメディアデイジー(DAISY)

音声に合わせて、その部分の文字や画像と一緒に画面に表示されるデジタル録音図書。音声のみのデイジー(DAISY)よりわかりやすい。

レファレンス

利用者が求める資料や情報を提供あるいは提供する手助けをすること。レファレンスサービスとも言う。

レフェラルサービス

利用者の要求するテーマに関する情報の情報源(人、機関等)を知らせるサービス。具体的には、他の図書館や類縁機関、専門機関や専門家へ問い合わせたり、紹介したりする。

ヤングアダルト

一般的には、子どもから大人への転換期にある13歳から19歳までの年齢層のこと。この年代の好みや心理に配慮した図書資料を展示しているコーナーをヤングアダルト(YA)コーナーという。

YA通信

「YA」はYoung Adultの略。ヤングアダルト向けの図書資料や行事を紹介したチラシのこと。